4　生徒指導の充実

子どもたちの多様化が進み、様々な困難や課題を抱える児童生徒が増える中、学校教育には、子どもの発達や教育的ニーズを踏まえつつ、一人一人の可能性を最大限伸ばしていく教育が求められています。生徒指導は、一人一人が抱える個別の困難や課題に向き合い、「個性の発見とよさや可能性の伸長、社会的資質・能力の発達」に資する重要な役割を有しています。

Ⅰ　生徒指導の意義

生徒指導は、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義をもつものと言えます。

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・自主的に成長や発達する過程を支える教育活動のことであり、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・ 能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とします。

生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が**自己指導能力**（深い自己理解に基づき、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力）を身に付けることが重要です。

生徒指導の実践上の視点

○　**自己存在感の感受**
⇒集団に個が埋没しないよう自己存在感等を実感できるよう工夫
（自己肯定感・自己有用感を育むことも極めて重要）

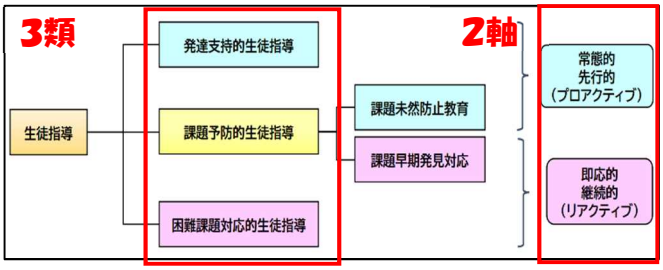
○　**共感的な人間関係の育成**
⇒支持的で創造的な学級・ホームルームづくり

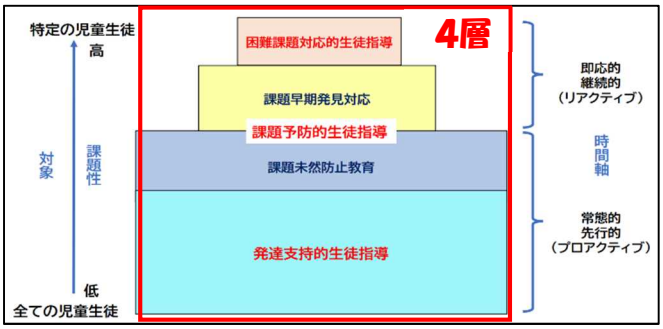
○　**自己決定の場の提供**
⇒「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

○　**安全・安心な風土の醸成**
⇒お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が遅れるような風土づくりを支援

Ⅱ　生徒指導の構造（2 軸 3 類 4 層構造）

生徒指導は、児童生徒の課題への対応を時間軸や対象、課題性の高低という観点から類別することで、構造化することができます。





生徒指導においては、課題が起き始めたことを認知したらすぐに対応する（即応的）、あるいは、困難な課題に対して組織的に粘り強く取り組む（継続的）というイメージが今も 根強く残っています。しかし、起きてからどう対応するかという以上に、どうすれば起きないようになるのかという点に注力することが大切です。

Ⅲ　生徒指導と教育課程

学習指導の目的を達成する上で、また生徒指導の目的を達成し、生徒指導上の諸課題を生まないためにも、教育課程における生徒指導の働きかけが欠かせません。

そのため、教育課程の編成や実施に当たっては、学習指導と生徒指導を分けて考えるのではなく、相互に関連付けながら、どうすれば両者の充実を図ることができるのか、学校の教育目標を実現できるのかを探ることが重要になります。

学習指導要領の趣旨の実現に向け、特に**発達支持的生徒指導**の考え方を生かすことが不可欠です。

発達支持的生徒指導

○　特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させる過程を学校や教職員がいかに支えるかという視点に立つ。

○　日々の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業や行事等を通した個と集団への働きかけが大切。

○　自己理解力、コミュニケーション力、共感性等を含む社会的資質・能力を育成や、キャリア教区、SC 等の協力を得て、人権教育等の推進

○　意図的に、各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動等と密接に関連させ取り組む。

【参考資料】

・生徒指導提要（改訂版）（令和４年12月文部科学省）